

2024年3月4日

苫小牧市長
岩倉博文様

連合北海道胆振地域協議会
会長 日西和広

北海道平和運動フォーラム日胆地域協議会
代表 田畑明洋

立憲民主党北海道総支部連合会第9区総支部
代表 山岡達丸

米艦船ミサイル駆逐艦「ハワード」の
苫小牧港からの早期出港に関する申し入れ

貴職におかれましては、日夜、市民生活の安心・安全を守るために、取り組まれておりますことに敬意を表します。

さて、米艦船ミサイル駆逐艦「ハワード」が2024年2月29日に苫小牧港へ3月4日から6日までの期間で寄港の希望があり、現在、苫小牧市の受入判断により、すでに入港されております。苫小牧市は、北海道において唯一「非核平和都市条例」がある都市であり、核兵器搭載の可能性のある米艦船の寄港は、容認することはできません。苫小牧市は、この度、寄港した米艦船「ハワード」については、核兵器搭載能力がないとの見解が示されたとして受入れの判断をしました。当該艦船にその事実を直接確認しているわけではなく、また市民に十分な説明責任を果たしているとも言えず、不安を抱く市民もおおり、同条例の精神に反するという指摘もされています。

人命救助、その他の人道上の理由、航海に支障が生じる等による緊急性が生じているのであれば、公共の港湾として、その要請に応じていくことまで否定するものではありませんが、今回の寄港目的は軍艦にとっては軍事行動を意味する「通常入港」であり、これらの事情を有するものではありません。

当該の艦船に対して、核兵器搭載の可能性について、今からでも直接の確認を行うとともに、市民に対する十分な説明責任を果たす必要があります。さらには、民間商業港である苫小牧港の寄港は、地域紛争が起こった場合に米国が民間港を使用するため準備しているものではないかと懸念する声も上がっており、これらの状況を考慮すれば、米艦船に速やかに出港を行うよう促すべきものと考えます。

苫小牧市民を含め、道民の暮らしの安心と安全、地域の平和を願う立場から、上記の件について考慮し、市民の不安を払しょくするためにも米艦船の早急出港を強く要請します。

以上